

スタンダードチャータード PLC 2008 年度業務予測報告書

2008 年 11 月 24 日

スタンダードチャータード PLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」または「グループ」と称します)は、2008 年度 12 月期年次会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会予定しておりますが、当報告書においては説明事項詳細についてご説明させていただく所存です。

弊行グループ CEO であるピーター・サンズのコメントは、次に示すとおりです。「スタンダードチャータード銀行は、金融危機により市況が混乱する中、今年 10 月末にかけて、引き続き記録的な収益を達成しました。多様な収益源、そしてバランスシートの健全性、リスクに対する一貫したアプローチが、収益成長を支える大きな活力となりました。当行グループが事業展開するアジア・アフリカ・中近東地域市場に金融危機の影響がないとはいえませんが、他の地域国市場と比べると、比較的順調といえるでしょう。スタンダードチャータード銀行は、不透明感が漂う市場を乗り越え、そこに生まれるビジネスチャンスをつ捉えることができる(市場においても)優位なポジションにあります」

以下、比較数値につきましては、特に明記のない限り、すべて年次ベースで作成されております。

損益勘定

スタンダードチャータード銀行の業績は、好調な上半期の業績に支えられ、本年度下半期においても引き続き堅調なものとなりました。

グローバル金融危機による影響は、当行が事業展開する市場でも拡大しており、そのほとんどに経済成長の鈍化が見られます。また、地域金融市場のボラティリティーが高まり、流動性も停滞しています。しかしながら、同市場の大半が今後も欧米市場より高い成長率を保持し、その経済は、豊富な外貨準備高や高い貯蓄率、低いレバレッジ水準、堅調な内需の伸び、また政府や中央銀行が確固たる政策を取っていることから、比較的好調であると思われま

す。当行グループの収益成長率については、ホールセールバンキング部門の業績が、商品ラインアップと顧客セグメント全般で引き続き好調なことから、堅調に推移いたしました。一方、コンシューマーバンキング部門では、ウェルスマネジメント事業の業績が前期比で落ち込み、現在も低迷していることから、収益の伸び率が上半期より鈍化いたしました。

資金関連収益については、広範にわたり堅調に推移しております。

また、費用管理の面では、増加を抑えるための厳しいチェック体制を採用しており、年次ベース(アメリカン・エクスプレス銀行(「AEB」)の業績を含む)で、費用増加率は、収益伸び率と概ね一致すると予想しています。しかし、スタンダードチャータードグループのみでは、収益成長率が費用増加率を大幅に上回る見込みです。

AEB 統合については順調に進んでおりますが、以前お知らせしましたように、統合による本年度グループ収益への影響は 1 億米ドル相当となり、当初 1 年間で 1 億 6,000 万米ドル相当の経費計上は上半期の収益を超えるものとなります。

この 2 ヶ月間に台湾、ブラジル、香港で実施された小規模な買収を行いました。これは、私どものコミットメントである販売網の拡大と収益成長についての確信を具現化するものです。

財務諸表

当行グループは、十分かつ慎重に分散化がなされた資産管理により、潤沢な資本力と高い流動性を持ち合わせています。

事業拠点を置くすべての市場においても、行政による自己資本比率規制に準拠した営業活動を展開しています。また、スタンダードチャータード銀行(スタンダードチャータード PLC の英国法人)の自己資本比率は、英政府の銀行セクターを対象としたスキームに基づく比率基準を十二分に満たすものです。当スキームについてはストレステストにより定められた最低 8%(Tier 1 主要企業)の基準や米国連邦準備理事会(FSA)が定める 4%の基準が設けられています。

11 月 14 日付で、劣後資本(Tier2 Capital)の上位にある変動利付債(金額: 13 億米ドル)について買戻しを開始いたしました。今回の買戻しは、資本構成の最適化のために実施されたものです。本公開買戻しは 12 月 3 日に終了し、それによる利益は一株当たり利益(EPS)に反映されます。

本年度下半期は、為替変動が激しく、当行グループの純資産にも影響がございました。特に、韓国通貨ウォンの為替変動が著しかったことから、1 米ドルに対して 50 ウォンの動きはグループ純資産に約 1 億 8,500 万米ドル相当の影響を与えます。しかし、自己資本比率への影響については、外貨建資産も同様に影響を受けるため、比較的少なくなっています。

当行グループでは、高い流動性を維持し、預金残高も順調に増加していることから、実質ベースでの預貸率は 100%をやや下回る数値となっています。また、今後も引き続きインターバンク市場における資金放出のポジションを維持してまいります。

バランスシートも底堅く分散されており、資産担保型証券(ABS)、商業用不動産、レベル 3 資産に対するエキスポージャーも限られたものとなっています(モーゲージ資産に関するポートフォリオについては 49%の融資比率)。

当行グループは、国際会計基準審議会(IASB)が今年 10 月に公布した IAS39 修正版に基づき、約 83 億米ドルの非流動資産をそれまでの売買目的及び売却可能有価証券から売却可能有価証券及び売却可能貸付金へ分類を変更しました。

今回の分類変更がなければ、グループの税引き前利益は、2 億米ドル相当減少したと思われる。その内 ABS が占める割合は約半分以下です。

ABS 関連ポートフォリオの詳細については、別紙をご参照ください。

業況

コンシューマーバンキング事業

コンシューマーバンキング部門における収益成長は穏やかに推移しており、(アメリカン・エクスプレス銀行統合の影響を除けば)、収益は 2007 年度からほぼ横ばいとなっています。

本年度下半期の収益率(月次ベース)は上半期よりも低く推移していますが、それは概ねウェルスマネジメント事業の業績が低調だったことに拠ります。特に 9 月以降は、グローバル金融市場が混乱したことから消費者マインドが冷え込み、売上高に減少が見られました。

しかしながら、消費者信頼感指数が低下し資産運用の収益率が減少する中、下半期の業績の伸び率は停滞したものの、シンガポール、インド、アフリカ諸国などの市場における業績は好調でした。香港での収益は、住宅金利に影響を与える香港銀行間取引金利(HIBOR)の利下げがあったことで下半期にウェルスマネジメント事業の業績が急落し、2007年度と比較し減少する見込みです。

中小企業向け(SME)金融事業では、特に、インド、シンガポール、アラブ首長国連邦において好調な業績を上げています。SME資産の目減りは、主に、無担保融資枠の拡大を押さえ、景気の先行きが不透明であることから貸し出し条件を厳格化したことによります。

住宅ローン事業についても、金利変動や競争の激化で業績に影響が見られます。

当行グループは、これまで販売・商品力に注力し、慎重かつ販売網拡大への投資を行ってまいりました。また、ダイナミックな事業展開のために、人員の合理化と事業効率化を図り、コスト削減のための追加対策を打ち出しています。これにより、今期は上半期のレベルより低い経費の計上を見込んでいます。年次ベースでの費用増加率は、収益伸び率を上回ると予想しています。

同部門の資産の質については、経済環境が悪化する中、引き続き堅調なものとなっています。融資ローンの劣化については、予想値に沿ったものであり、特定の資産ポートフォリオ・地域に限定されていることから、当行グループ全体への影響は全くありません。また経済見通しが不透明であることから、事前対策や融資条件の厳格化、資金回収のための人材確保、資産ポートフォリオの一部見直しを行ってまいりました。その結果、資産の目減りは最小限に抑えられています。

コンシューマーバンキング部門は、全販売網を通じて、引き続き預金残高の増加を目指して全ての支店、子会社銀行で目標達成のためにまい進する所存です。

ホールセールバンキング事業

本年度下半期、ホールセールバンキング部門における収益成長は大変堅調に推移しています(アメリカン・エクスプレス銀行の収支を除く)。

同部門の収益については、主要顧客セグメントや商品全般にわたり好調な伸びを示しています。顧客主導を念頭においた顧客サービス部門、特にキャッシュマネジメント、トレードファイナンス部門の業績が好調で、引き続きホールセールバンキング部門の主な収益原動力となっています。

目まぐるしい競争環境の変化や市場ボラティリティが高まりつつある中、当行はさらにクライアントリレーションシップを深め、リスク資産の再評価や効果的かつ広範な担保管理を行っています。また、ますます荒れる経済環境が事業法人事業の営業ペースや実施タイミングに影響を及ぼしているものの稟議中の案件数は引き続き高いレベルにあります。

効果的なバランスシート管理と商品ラインアップの拡大により、預貯金による収益は堅調に推移していますが、主要ファイナンス事業部門から収益を上げることは、現在の市況下でさらに困難なものとなっています。

また、ホールセールバンキング部門では、事業効率性改善のために様々な対策を取る一方、商品ラインアップの拡大、インフラ基盤の強化、事業範囲の拡大と事業投資を続けてまいりました。年次ベースでの費用増加率は、収益伸び率を下回ると予想しています。

ここ数年、非常に低いレベルにあった劣化ローンに上昇の兆候が見られる一方、同部門におけるクレジットクオリティは引き続き良好なものとなっています。ローン劣化の兆候は、主に金融機関セグメントの悪化により引き

起こされたものです。ただし、企業会計上、劣化の兆候は僅かに抑えられています。クレジットクオリティのレベルは前年より低いものの、回復基調にあるといえます。

クレジットクオリティについては、事前対策や資産ポートフォリオの一部見直しにより、非常に慎重に対処しているところです。また、今回の増資については、プライマリー市場およびセカンダリー市場における株式売り出しの際の好選度レベルの変更には慎重に対応しています。世界のクレジット市場が混乱する中、当行のシンジケート事業の業績は、当行が事業展開する市場からの需要が引き続き高く、好調に推移しています。

本年度下半期においては、10月中に加速した株式市場の悪化が一定の株式投資に関する評価額悪化につながりましたが(主要ファイナンス事業の一部を含む)、それにより、利益に3億米ドル相当(10月31日現在)の影響があります。ただし、株式評価基準に照らし合わせると、資産ポートフォリオは今後も魅力的であると考えています。

リスクウェイトアセット(RWA)の増加には、当行は主要ビジネスと顧客セグメントに注力し、万全の注意を払っています。また、RWAによる上半期の増加率は、一桁という低いレベルとなると予想しています。

韓国

スタンダードチャータード銀行は、国内事業の再構成および合理化を引き続き推進しています。

今年10月末時点において、ヘッジ会計の要請に基づき、非効率的部分の調整のため800万米ドル相当の費用認識をさせていることにより、収益は引き続き変動しやすい状態にあります。

今年にかけて韓国通貨であるウォン安が進み、決算結果の悪化を招きました。しかし、ウォンベースでは、収利ともに、堅調な2桁成長が見込まれています。

また、生産性を重視した問題提起により、同通貨ベースでの費用増加率は緩やかなものとなり、収益伸び率を相当下回ると予想しています。引き続き実施しているコストベースでの効率性改善対策の一環として、7月にはボランティア・スキームを開始。これによる今年の費用計上額が増加したものの、来年には大幅なコスト削減が期待されています。

最後に

当行グループの収益成長は、本年度上半期と比較し減速傾向があるものの順調に推移しております。しかし、私どもはこの数週間の市場変動による今後の影響に留意し、引き続き収益伸び率に見合った費用管理、および積極的かつ統制のきいたリスク管理を行っていく所存です。この数カ月に市場で起こった異例の出来事により影響を受けない大手金融機関はありませんが、グループ業績およびアセットクオリティは引き続き堅調なものとなっています。

別紙: 資産担保型証券 (ABS)

	2008年6月30日付	2008年10月31日付	2008年6月30日付	2008年10月31日付	
	元本価格	元本価格	帳簿価格	帳簿価格	公正価格
ABS へのエクスポージャー額 (単位:百万米ドル)					
RMBS					
US Sub-prime	0	0	0	0	0
US Alt A	89	86	59	59	48
US prime	2	2	2	1	1
UK/その他	1,562	1,112	1,499	1,059	1,027
CDO					
ABS	264	212	79	44	39
その他 CDO	394	381	335	313	245
CMBS					
US CMBS	150	148	132	130	103
その他 CMBS	904	708	796	596	576
その他 ABS	2,221	1,940	2,059	1,774	1,674
合計	5,586	4,589	4,961	3,976	3,713
AFS 引当金計上額	(186)	(215)			
損失計上額	(130)	(153)			

注記: 簿価には貸付金および売掛金を含むABSポートフォリオすべてが反映されています。

本年度業務予想報告に関するカンファレンスコールは、当行オフィシャルウェブサイト上 (webcast) で生放送される予定です。視聴ご希望の方は、<http://investors.standardchartered.com> (説明会開始時間: 9:00 ~ GMT) へアクセスしてください。また、説明会終了後、webcastおよびpodcastにて録画をご覧になれます。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations

+44(0)20 7885 7245

Arijit De, Head of Media Relations

+44(0)20 7885 7163

日本語での問い合わせは、以下へご連絡ください。

Christopher Domitter (クリストファー・ドミター)

スタンダードチャータード銀行東京支店コーポレートアフェアーズ部部长

Christopher.Domitter@standardchartered.com

03 5511 1361

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。